

高温・干ばつ害対策

1 早期水稲

- (1) 登熟期間は早期落水を避け、可能であれば掛け流しの水管理を行い、地温を下げて稲の消耗を抑える。
- (2) 水不足が懸念される場合は、水系ごとの計画的なかん水に取り組むなど、節水栽培に努める。

2 普通期水稲

- (1) 幼穂形成期～穂揃い期までは、間断かん水や湛水に努め、登熟期間は早期落水を避け、可能であればかけ流しの水管理を行い、地温を下げて稲の消耗を抑える。
- (2) 水不足が懸念される場合は、穂揃い期までは浅水管理を行い、水系ごとの計画的なかん水に取り組むなど、節水栽培に努める。

3 さとうきび

- (1) かん水可能なほ場では、かん水を行う。
- (2) 新植夏植えは作溝後直ちに植え付け、覆土を厚めに行う。

4 さつまいも

- (1) かん水可能なほ場では、かん水を行う。

5 野菜

(1) 野菜全般

- ア 乾燥するとハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の病害虫が発生しやすくなるため、発生動向に十分注意し、適期防除に努める。
- イ 露地野菜におけるは種・定植は、土壌が乾燥した状態ではなく、雨後の基礎水が確保されてから実施する。
- ウ 高温・乾燥等により石灰欠乏が発生しやすい品目（ピーマン、にがうり、いちご、そらまめなど）は定期的に石灰資材の葉面散布に努める。
- エ 하우스栽培では、西日を抑制するために、西側肩部分に2mの遮光資材を設置し、植物の消耗を抑制するよう心がける。

(2) 果菜類（なす、オクラ、ピーマン、きゅうり、にがうり）

- ア 不良果等の摘果を行い、草勢維持に努める。
- イ マルチをしていないほ場では、敷草、敷わら等を厚めに敷き、乾燥を防ぐとともに、かん水は朝夕の地温の低い時に行う。

(3) 葉菜類（ほうれんそう、チンゲンサイ、根深ねぎ）

- ア ハウス栽培では、遮光資材等を天井ビニルの上から張り、サイド等を開放するなどして、ハウス内の温度を下げる。または、遮熱資材等を塗布しハウス内温度を下げる。
- イ は種後は、切りわら等で被覆し、土壌の乾燥と地温の上昇を防ぐ。
- ウ かん水は、朝夕の地温の低い時に行う。

(4) 根菜類（さといも、ごぼう、にんじん、だいこん）

ア かん水施設のあるところでは、5日間隔で30mmのかん水を行う。

イ は種作業を行う場合は、は種後の鎮圧、かん水を十分に行う。

6 花 き

(1) 敷きわら、敷草等により、土壤の乾燥を防止する。

(2) かん水できるほ場では、朝夕の地温の低い時にかん水する。

(3) 露地栽培では、寒冷紗で被覆し、地温を下げる。

(4) ハウス栽培では、遮光資材等を天井ビニルの上から張り、サイド等を開放するなどして、ハウス内の温度を下げる。

(5) 乾燥するとハダニ類、アブラムシ類、スリップス類等の発生が多くなりやすいため、発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

(6) 収穫は気温の低い早朝に行い、低温貯蔵庫等に入れる。

(7) 水源を確保するとともに貯水施設を設置し、かん水できる状態にしておく。

7 果 樹

(1) 土壤表面からの蒸発を防止するため、敷きわら等を行う。

(2) 土壤の乾燥を防ぐため、かん水を行う。また、かん水の効果を高めるために、下記のとおり工夫する。

ア かん水は午前中に行う（夕方～夜のかん水は裂果の発生を助長するため）。

イ 樹冠下に集中的にかん水する。

ウ 土壤かん注や点滴かん水を行う。

(3) 恒久的な対策として、水源を確保し、かん水ができる状態にしておくことが望ましい。

(4) カンキツでは、日焼けが発生しやすい（直射日光が当たる）位置の果実に遮光資材等を被せる。

(5) 施設カンキツでは、可能な限り、遮光資材を被覆して直射日光を遮る。

(6) ハダニ等害虫の発生に注意し、適期防除に努める。

8 茶

(1) かん水を行う。

幼木園… 5日おきに20～25mm

成木園… 7日おきに30mm

(2) かん水を行う場合は、畝間ではなく株元に水が届くようにする。

(3) 深耕は行わない。

9 畜 産

(1) 家畜

ア 畜舎周辺の壁や障害物を除き、風通しを良くする。

イ 屋根散水や送風機等で畜舎の換気を促進したり、風、細霧（水滴）等を家畜に直接当て、体温を下げる。

- ウ 毎日きれいな水を与える。可能であれば冷水を与える。
- エ 畜舎周辺を涼しくするため、遮光ネット等を張り、日陰を多くする。
- オ 夜間放牧や涼しい場所に家畜を引き出す。
- カ 青草給与を控え、消化の良いサイレージ、乾草を給与する。
- キ 飼料は、涼しい時間に与える。

(2) 飼料作物

- ア かん水ができず、草勢の回復が困難と見込まれる場合には、早期に収穫を行い、品質低下の防止に努める。
- イ 今後播種する場合には、耐干性の優れた草種、品種の選定に努める。
- ウ 土壌条件を考慮しながら、土壌の排水性を向上させるために、牛ふん堆肥等の有機物を施用する。